

ビワ生育情報

千葉県
平成24年3月号

平成24年2月の気象

平成24年2月の半旬別の気象は表1に示した。平均気温は第2及び第5半旬を除く4半旬で平年を下回った。月平均気温は5.2℃で、平年より1.1℃、前年より2.4℃低かった。

氷点下日数は第1～第5半旬でみられた。月合計は13日で、平年より4日多く、前年より8日多かった。

最低極温は第1～第4半旬で平年を下回った。2月3日には、暖地園芸研究所で-4.1℃、館山測候所で-5.4℃を記録した。幼果が寒害を受ける-3℃以下を記録した日数は3日（1月と合わせて5日）あった。

降水量は第2及び第5半旬を除く4半旬で平年を下回ったが、第5半旬は105mmを記録し、月合計は161mmで平年より64mm(66%)、前年より23mm(17%)多かった。

日照時間は第4半旬を除く5半旬で平年を下回った。月合計は122時間で、平年より29時間(19%)少なく、前年より1時間(1%)多かった。

表1 平成24年2月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	気温(℃)			氷点下日数(日)			最低極温(℃)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	3.8	5.3	5.5	4	2.1	3	-4.1	-1.7	-3.4
2	6.7	6.3	7.6	2	1.8	0	-1.4	-1.3	1.7
3	5.2	6.5	4.3	2	1.8	1	-1.8	-1.5	-1.7
4	3.1	6.2	9.2	4	1.5	1	-2.5	-1.1	-1.2
5	8.1	6.8	9.8	1	1.2	0	-0.3	-0.4	0.7
6	4.0	7.2	9.3	0	0.8	0	0.5	0.4	3.4
平均/計/最低値	5.2	6.3	7.6	13	9.2	5	-4.1	-3.2*	-3.4

※：過去38年間の最低極温の平均

表1 (つづき)

半旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	0	12	1	27	29	37
2	34	13	26	16	28	14
3	7	10	18	19	27	17
4	4	28	47	36	26	10
5	105	19	11	21	26	30
6	12	15	36	5	16	15
合計	161	97	138	122	151	121

4月の作業（果実の発育は次ページ）

4月になると平均気温が一段と高くなって枝葉・根ともに伸長が盛んな時期になり、果実の肥大も急速に進む。3月に続き、摘果・袋掛けが重要な作業になる。

摘果・袋掛け

寒害を受けやすい園では、幼果の生死の判別がしやすくなったところから摘果を始める。果形が細長く、果実肥大が均一でなく、果皮に張りが無いものは被害果の可能性が高い。被害果の発生が多い園では、樹冠の外側の幼果は避けるようにする。

がんしゅ病の予防

袋掛けが終了した後、収穫が始まるまでに千葉県農作物病害虫雑草防除指針に従って銅剤を予防散布する。幹や枝に薬液が十分にかかるようにする。

除 草

春草が繁茂する時期になるので、収穫が始まる前に除草をすませる。草生栽培園では、有機物を補給する意味で草を刈り取って樹冠の回りに敷くとよいが、労力の足りない場合は除草剤を利用する。

樹及び花房の発育

ビワの開花期は表2に示した。暖地園芸研究所の開花始期（1花房内の蕾の10%が開花）は、「楠」が11月6日で、平年より3日、前年より1日早かった。「大房」は11月19日で、平年より6日、前年より25日早かった。「田中」は11月11日で、平年より2日、前年より8日早かった。

開花盛期（1花房内の蕾の50%が開花）は、「楠」が11月16日で、平年より13日、前年より12日早かった。「大房」は12月7日で、平年より15日、前年より23日早かった。「田中」は11月21日で、平年より17日、前年より16日早かった。

開花終期（1花房内の蕾の90%が開花）は、「楠」は11月28日で、平年より33日、前年より18日早かった。「大房」は1月1日で、平年より31日、前年より32日早かった。「田中」は12月4日で、平年より55日、前年より21日早かった。

本年は、花房の発現は遅かったものの、10月及び11月は平年より温暖だったため、開花の進みが早かった。1月末から2月上旬に強い寒波があり、幼果に凍害がみられる。

表2 ビワの開花期（暖地園芸研究所）

品 種	開花始期(月.日)			開花盛期(月.日)			開花終期(月.日)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	11. 6	11. 9	11. 7	11. 16	11. 29	11. 28	11. 28	12. 31	12. 16
大 房	11. 19	11. 25	12. 14	12. 7	12. 22	12. 30	1. 1	2. 1	2. 2
田 中	11. 11	11. 13	11. 19	11. 21	12. 8	12. 7	12. 4	1. 28	12. 25

平年：1982年～2010年の29年間の平均

3月2日時点のビワ幼果の生存率は表3に示した。樹冠外側の生存率は「楠」が82%、「大房」が48%、「田中」が67%であり、「大房」及び「田中」は平年及び前年より著しく低かった。樹冠内側の生存率は「楠」が92%、「大房」が90%、「田中」が99%であり、「楠」及び「田中」が平年及び前年より高かった。樹内外の平均生存率は「楠」が87%、「大房」が66%、「田中」が83%であり、「大房」及び「田中」は平年及び前年より低かった。

暖地園芸研究所では、2月29日までに最低気温-3℃以下を記録した日が5日あり、寒害の被害が多かった。「楠」は平年より被害が少ないが、「大房」及び「田中」は開花盛期が平年より2週間以上早く、幼果の生育が早かったため、被害は多いようである。

花房内の幼果数はやや少なく、萌芽の展葉は遅れ気味である。本年の果樹カメムシ類の越冬量は、南房総市他県南地域で平年より多く、今後の発生予察情報を参考にする。また、カメムシの発生の多い園では、4月以降ビワ園への飛来に注意を要する。

表3 ビワ幼果の生存率（暖地園芸研究所）

品 種	樹冠の外側(%)			樹冠の内側(%)			内外の平均(%)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	82	63	68	92	92	75	87	77	72
大 房	48	84	86	90	95	93	66	88	87
田 中	67	84	88	99	97	90	83	90	87

調査：2012年3月2日

平年：1998年～2011年の14年間の平均

【問い合わせ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹・環境研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/nousui/nourinsuisan/nourinsuisan.html>